

<これまでの経緯>

- 平成26年 3月 「庁舎あり方検討委員会」により提言書を取り纏め
- 平成29年 9月 市議会より「早期の新庁舎整備について」の提言
- 11月 新庁舎の整備に係る基本計画について検討を開始
- 平成30年 7月～ 市議会による公共施設調査特別委員会  
および新庁舎整備検討ワーキングチームでの議論（計12回）
- 平成31年 2月 基本計画に係るパブリックコメントの実施
- 3月 「守山市新庁舎整備基本計画」の策定
- 令和 元年 8月 公募型プロポーザルにより基本設計者の決定、基本設計の着手
- 令和 2年 5月 基本設計に係るパブリックコメントの実施
- 6月 新庁舎整備に係る基本設計の完了
- 令和 3年 3月 DB事業者の決定、実施設計の着手
- 9月 準備工事（先行解体など）の着工
- 12月 新庁舎整備に係る実施設計の完了

<建築概要>

- 敷地面積：約17,400㎡
- 構造：鉄骨造  
（耐震壁にCLTを採用）
- 階数：4階建
- 延床面積：約12,990㎡  
（現庁舎：約6,900㎡）
- 駐車台数：423台  
（現庁舎：304台）

※現庁舎にすこやかセンターは含めていません。

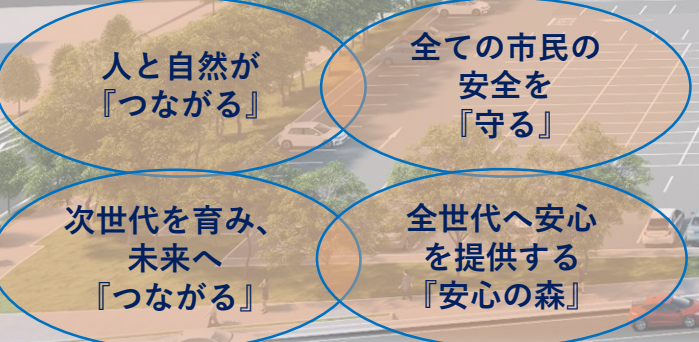
<DB(デザインビルド)事業の発注概要>

- 発注方式：基本設計先行型DB方式※1
- 実施設計・施工：(株)竹中工務店 京都支店
- 契約額：金6,105,000,000円（税込）
- 契約工期：令和3年3月25日～令和6年7月19日
- 事業内容：実施設計、本体工事、周辺外構工事

<基本設計者>

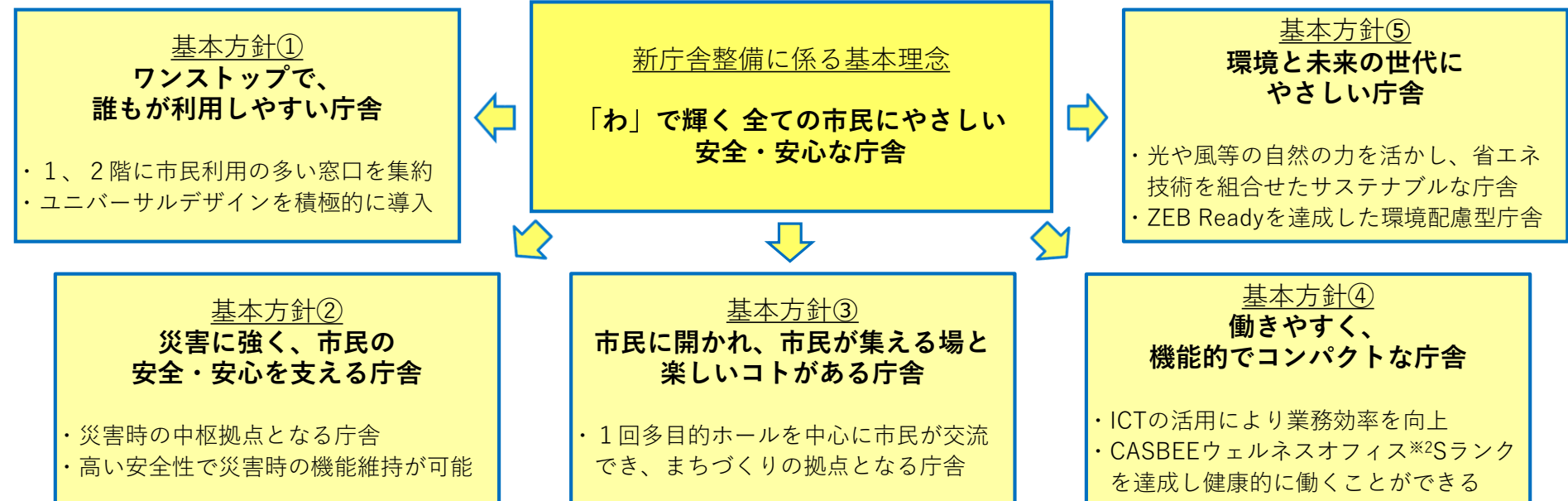
- 隈・安井設計共同企業体
- (株)隈研吾建築都市設計事務所
- (株)安井建築設計事務所

<新庁舎のイメージ> 『つなぐ、守の舎（もりのや）』



守山市新庁舎『つなぐ、守の舎』整備事業

<新庁舎の基本理念および基本方針>



<事業費>

ハード	約66億円
ソフト	約13億円
合計	約79億円

<今後のスケジュール>

令和4年1月	本体工事の開始
令和5年9月	新庁舎の暫定供用
10月	旧庁舎の解体工事
令和6年4月	外構整備工事の着工
令和7年3月	全整備工事の完了

※1 DB方式：実施設計、工事施工の両方を一業者に一括発注する方式  
 ※2 CASBEEウェルネスオフィス：建物利用者の健康性、快適性の維持・増進を支援する建物の仕様、性能、取組を評価する認証制度



# まちと市民と“つながり”、“開かれた” 立体的に“めぐる”『街道の庁舎』

守山市は『旧中山道』をはじめとする多様な道でつながれたまちです。新しい庁舎は道とつながり、かつての宿場町のようなヒューマンスケールの軒が連なり、行き交う人々と賑わう、『街道』と一体化した開かれた庁舎を目指します。



## 1. 庁舎とまちを“つなげる”『森の街道』

軒が連なる『街道』のように、ヒューマンスケールの底と既存樹木が連なる『森の街道』によって、まちと庁舎をつなげます。



【新庁舎とつながるいくつかの街道や通り】 『中山道』の軒のつらなりと賑わい

## 2. まちと市民に“開かれる”『街道広場』



敷地西側の「市役所通り」沿いに、『森の街道』と連続する『街道広場』を配置することで、点在する周辺施設と庁舎の関係を容易にし、庁舎と周辺施設市民と庁舎の距離を縮めます。

### 【ホールエリアの利用オプション】



1F L型プランに沿うように配置した『森の街道』『街道広場』に面して市民利用スペースやロビーを配置することで市民に開かれた平面計画とします。1,2階部分に窓口機能を集約し、『ワンストップ化』をはかり『なかの街道』によって庁舎をひとつにつなげます。南側に公用車・議員用駐車場を配置することで明確な駐車場配置とします。

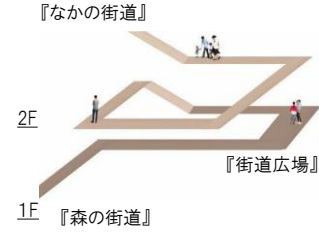
## 議会エリア

## 執務エリア

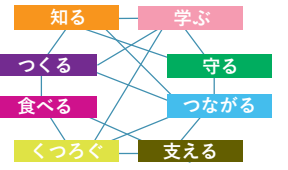
## 駐車場エリア

## ホールエリア

## 3. “めぐる”『なかの街道』



『なかの街道』は、『森の街道』や『街道広場』とも連続し、市民の活動や生活を支え、庁舎を立体的にめぐる市民に開かれた『街道』です。



それぞれの『街道』を中心に市民や職員の様々な“活動”を支え、“賑わい”を生み出す建築、仕掛けや仕組みづくりを積極的に取り入れ、楽しい“コト”がある庁舎の実現を目指します。

## 市民交流センター



## 5. 『森の街道』に点在する小さな仕掛け

『森の街道』では市民のコミュニケーションを促すための仕掛けを点在させます。



## 6. 市民が“集い”、活動で“賑わう”『街道広場』

多目的ホールやカフェと一体となり多様なニーズに応える柔軟なスペース



## D 1Fホール



状況に応じてフレキシブルに組み合わせる小さなパネルシステム

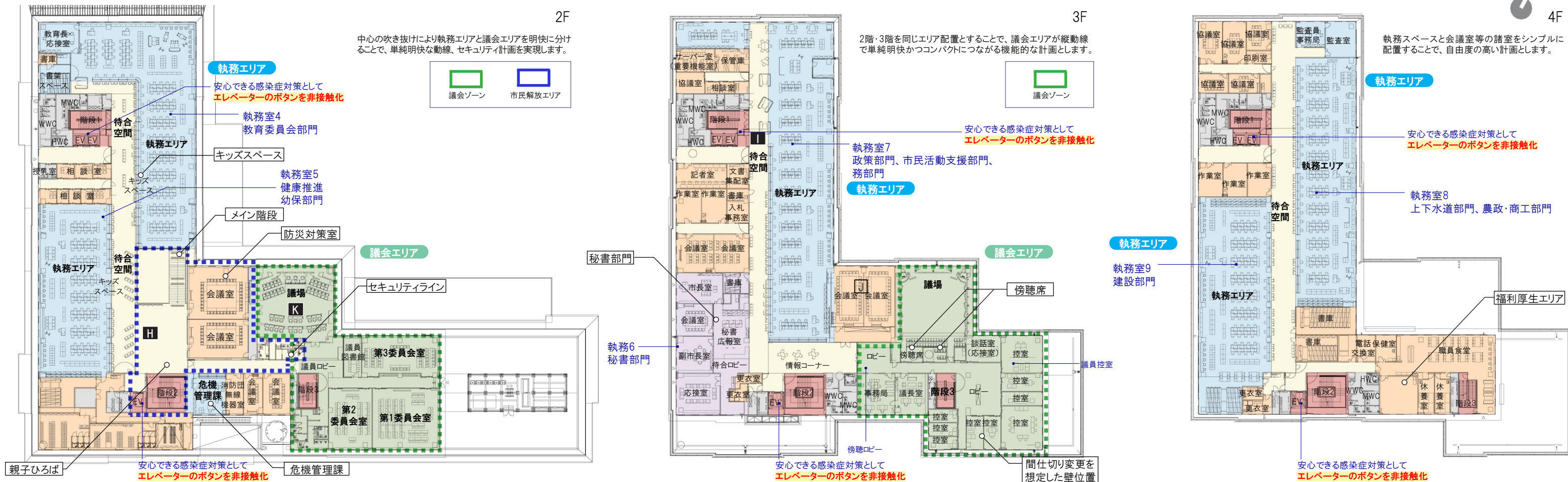
既存の緑も生かした適度な植栽帯



## 7. 『なかの街道』を中心とした、シンプルなゾーニングと動線による、機能的な『L型プラン』

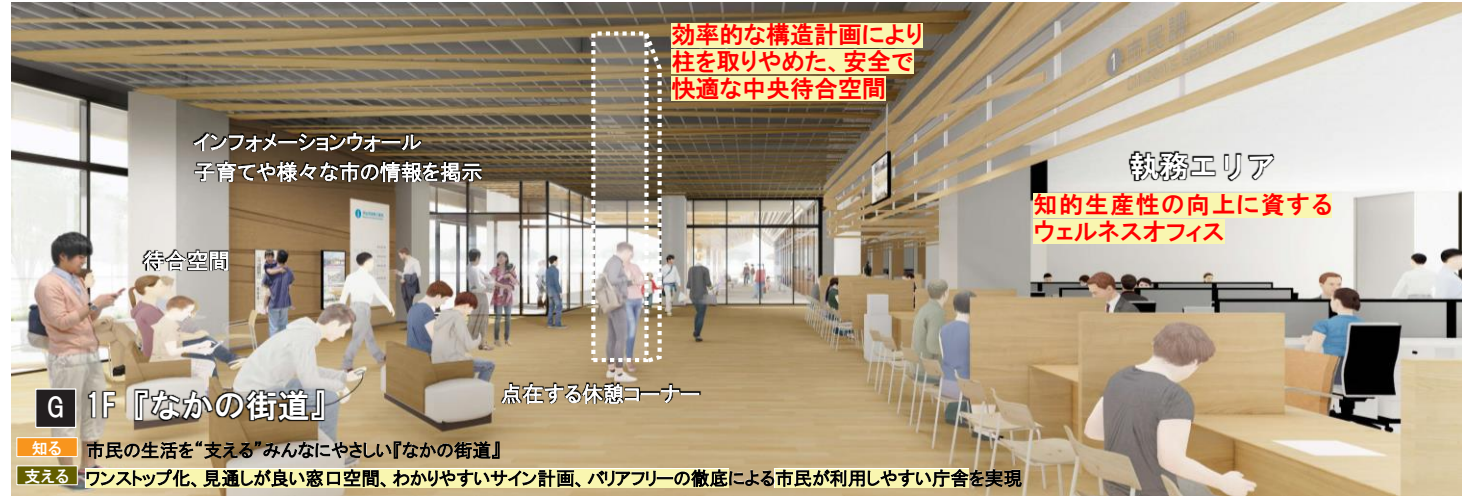
待合・ロビー・共用廊下 執務エリア 議会関係エリア 会議室等諸室 バックスペース 縦動線

L型を活かした明快なゾーニングとセキュリティ、動線計画を実現します。執務スペースはまとめることでユニバーサルレイアウトが可能な計画とします。



## 8. みんなに“やさしい”市民の“安全・安心”を支える庁舎

子育て世代のための設備の整備(授乳室、こどもトイレ、キッズスペース等)や危険性の排除、視認性の高い明快なサイン計画、窓口のワンストップ化、バリアフリー、ユニバーサルデザインを徹底し、市民が訪れやすく、活動を行いやすい計画とすることで、市民が気軽に訪れることができる庁舎を目指します。



待ち時間の低減と安全安心を確保する高機能カメラの設置



高機能カメラ

## H 2F吹き抜け+親子広場

知る L型プランの中心の吹き抜けを配置し、明快に分岐する2つのエリア  
 支える 吹き抜けにより階及び2階の市民の場をつなげることで、市民と行政の協働を促します。

## J 会議室

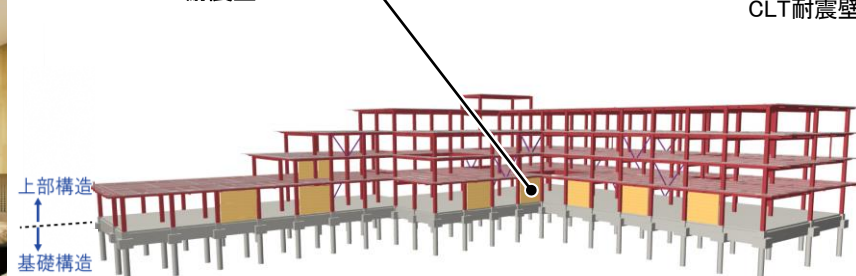
知る 支える 学ぶ つながる 市民利用も可能なシンプルで機能的な会議室



優れた耐震性能を有する構造システムを採用します。

- ・CLT(木の直交集成板)耐震壁を活用した鉄骨ハイブリッド構造
- ・木を構造に取り入れることにより「安全」「意匠」「環境」が融合した庁舎を実現

CLT耐震壁



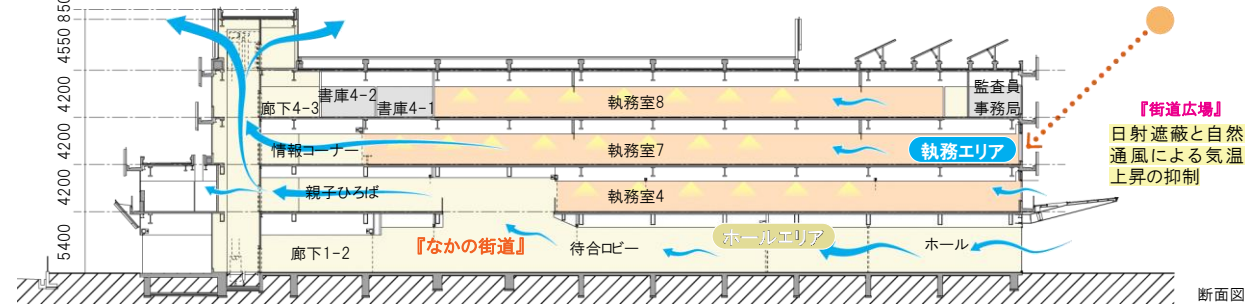
CLT耐震壁

※CLT:木の直交集成板 S:鉄骨造

## 9. 環境と“調和”し、環境に配慮した省エネの庁舎

自然エネルギーの積極的活用と高効率設備の導入により、一次エネルギー消費量の50%以上を削減し、ZEB Ready化を実現します。職員の健康に配慮し、知的生産性を向上する計画で滋賀県内初のCASBEEウェルネスオフィスランクを達成します。

- |                                    |   |                            |
|------------------------------------|---|----------------------------|
| 01 自然通風・自然換気、外気空調の採用による、換気・空調電力の低減 | 02 ペアガラスやLow-Eガラスを適材適所に用いた高断熱化と換気により、温度差による熱負荷の軽減 | 03 水損とコスト低減に配慮した外構のマウンドアップ |
| 04 センサー、自動制御による照明負荷の軽減             | 05 窓の庇やブラインドによる日射遮蔽とメンテナンスに配慮した水平のバルコニー熱負荷の軽減     | 07 守山特有の伏流水を活かした積極的な井水利用   |



## 10. “地域経済への貢献”

市内建設関連企業への発注等、地域経済貢献

- ・市内の協力会社を採用し労働力の確保と育成
- ・竣工後の維持、メンテナンスを踏まえた協力会社の選定

工事作業所運営に関わる物品・サービス等も市内企業を積極活用

- ・工事作業所備品、福利厚生サービスは周辺企業へ100%発注
- ・工事従事者の飲食関連は周辺施設を利用
- ・工事作業所内イベント時の記念品は地元事業者や地域団体から調達

## 11. 市内企業の需要をもたらすLPG空調熱源計画

空調熱源には、電気や都市ガスのほか、LPG(プロパンガス)を最大限利用したベストミックスとすることにより、環境負荷の低減、災害時における空調運転の信頼性向上、市内LPG業者へ需要をもたらす計画とします。

